

## 令和2年度第2回古賀市健康づくり推進協議会議事録（要旨）

1. 開催日時 令和3年1月27日（水）19時～20時

2. 開催場所 サンコスモ古賀201・202研修室

3. 会議次第

1. あいさつ
2. 報告事項
  - (1)健康づくり推進協議会での協議事項における令和2年度取組状況について
  - (2)ヘルスアップぷらんの進捗状況について
  - (3)特定健診・がん検診の受診状況について
  - (4)自殺対策計画の進捗状況について
3. 協議事項
  - (1)コロナ禍における市民の健康格差拡大防止対策について
4. その他

4. 出席委員 古賀市健康づくり推進協議会委員

出席委員： 12名

欠席委員： 4名

5. 傍聴者 有・無 1名

6. 議事概要

①健康づくり推進協議会での協議事項における令和2年度取組状況について（資料1）

②ヘルスアップぷらん（古賀市健康増進計画（第二次）・古賀市食育推進計画）の進捗状況について（資料2, 3）

- ・学校との取組【次世代の健康】（資料4）
- ・健康チャレンジ10か条の推進状況（資料5-1）
- ・「育てよう！わたしの元気の木」（小学校高学年向けリーフレット）（資料5-2）
- ・広報こが（令和2年9月号）「健康チャレンジ10か条（たべる・うごく）」（資料5-3）
- ・広報こが（令和2年12月号）「健康チャレンジ10か条（まもる・たのしむ）」（資料5-4）
- ・コロナ禍でのヘルス・ステーションの活動状況（資料6-1）
- ・広報こが（令和2年4月号）「ヘルス・ステーション（舞の里2区）の活動紹介」（資料6-2）
- ・健康づくり推進員・食生活改善推進員の状況【人材育成と地域づくり】（資料7）

③特定健診・がん検診の受診状況について

- ・特定健診・がん検診の受診状況について（資料8）
- ・特定健診受診率・特定保健指導実施率経年一覧（資料9）
- ・平成31年度 特定健診の状況（資料10）

④自殺対策計画の進捗状況について

- ・「誰も自殺に追い込まれないまち古賀をめざして」（資料 11-1）
- ・広報こが（令和 2 年 7 月号）【心の健康相談電話】（資料 11-2）
- ・広報こが（令和 2 年 11 月号）「心の健康も守る～あなたの思いを打ち明けましょう～」（資料 11-3）
- ・「ひとりで悩まず相談しましょう」相談窓口リーフレット（資料 11-4）
- ・古賀市地域自殺実態プロファイル（2019）（当日配布資料）

⑤協議事項

- ・コロナ禍における地域の健康格差拡大防止対策について【協議内容】（資料 12）

## 健康づくり推進協議会での質疑応答・意見交換

事務局	委員の交代について、新規に委嘱された委員を事務局より紹介する。 緊急事態宣言下での会議の開催のため、20 時までには終了する必要があるため、委員の皆様のご協力をお願いしたい。
会長	次第に沿って、報告事項（1）～（4）について、事務局より報告事項の説明をお願いしたい。
事務局	健康づくり推進協議会での協議事項における令和 2 年度取組状況（資料 1）について 資料 1 について説明 ヘルスアップぷらん(第二次古賀市健康増進計画)及び古賀市食育推進計画（資料 2～7） について 資料 2～7 について説明。 特定健診・がん検診の受診状況（資料 8～10）について 資料 8～10 について説明。 自殺対策計画の進捗状況について 資料 11-1、当日配布資料について説明。
会長	事務局の説明を受け、委員の皆様、ご質問のある方は挙手をお願いしたい。
会長	健康づくり推進員と食生活改善推進委員は、今年度具体的にどういった活動を実施したか？
事務局	健康づくり推進員は、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策として、昨年 8 月から健康測定を開始し、市の出前講座やイベント等で、体組成測定や握力などの測定を実施している。食生活改善推進員は、市の出前講座や低栄養予防教室での調理の協力、紙芝居づくりや劇の改変などを実施している。
委員	特定健診の説明で市にメタボリックシンドロームの方が多いと言われたが、その原因や推計されること、何が関与していると考えているか？
事務局	市では、特定健診の対象者にメタボに該当する人はもともと少なかった。以前から小学生の肥満が問題となってきており、その世代が成長し、30 代のメタボの対象者が増えてきているので

	<p>はないかと感じている。若い世代で肥満であった対象者が年を重ね、肥満へと移行しているのではと推測している。子どものころからの肥満の改善に取り組みたいと考えている。</p>
委員	<p>自殺実態プロフィールの事業所の数値が記載されたページについて、福岡で労働者の健康管理に関わる業務に従事しているので関心をもったが、定期的な会議の中で、労働者の相談先である地域産業保健センターの認知度が低いので、さらなる周知が必要であると感じた。中小企業において従業員数が少ないほど、健診後の二次健診を実施していない現状がある。</p>
会長	<p>医療機関において、新型コロナウイルス感染症対策を実施して診療にあたっている。他にご意見はないか？</p>
委員	<p>健診の受診率向上のために、ナッジ理論を利用した対策として、AIを活用した業者への委託について検討していると記載があったが、具体的にどういったものなのか？</p>
事務局	<p>次年度の計画ですが、AIが市民の健診受診歴の有無などで、傾向や特徴をつかみ、4つ位のグループに分け、受診勧奨の効果の高いグループを優先に受診勧奨を実施する事業となっている。</p>
委員	<p>昨日の地元の会合において、公民館の利用を停止している状況であった。ヘルス・ステーション活動について、他の区はどういった活動を具体的に行っているか伺いたい。</p>
事務局	<p>12月9日に開催したヘルス・ステーション情報交換会では、コロナ禍の影響を受け、公民館を空けていないところもあった。感染者の状況を見ながら、公民館内でも運動を実施している地区や昨年夏に健康講話と測定会を実施した地区、秋以降ウォーキング講座を実施した地区があった。</p>
事務局	<p><b>協議事項（資料12）について</b> 資料12について説明。</p>
会長	<p>医療機関では、新型コロナに関する相談が多数寄せられる。感染予防策を講じ、社会活動をしてほしいと伝えている状況である。東医療センターでの外来診療について、お尋ねしたい。</p>
委員	<p>東医療センターの外来では、玄関で検温、消毒を行い、発熱等の体調不良者、家族のリスクを考慮し、発熱外来等に案内するかを決めている。外来の医師や看護師は、標準感染予防策を講じ対応している。PCR検査はすべての患者に行っておらず、病歴等リスクを考慮し実施している。救急センターでは、患者のリスクや体調を判断し、PCR検査等を実施し、結果が出るまでは、患者の発熱や肺炎症状など病歴等を見ながら、対応する病棟等を決めている。入院患者全てにPCR検査をするかどうかについては、PCR検査が一時点の結果となり、その後に発症する可能性もあるので、入院時や入院後の対応について院内で議論をしているところである。</p>
委員	<p>地域活動ということで、(新型コロナウイルス感染症)濃厚接触者の定義で、(マスクなしで)15分以上(人との間隔)1m以上、とあるので屋外の活動であれば、実施できるのではと考え</p>

	<p>る。緊急事態宣言下において、歩く歩数が 1,000～1,200 歩ほど減少していたとのデータがあった。2 回目の緊急事態宣言下においても、格差が生じ、閉じこもりの方が増加するのではと予測される。外に出て動きましょと促すことは、地域の活動としてはいいと思われるが、市の意見として積極的に推進するには、(感染者が出た時のことを思うと)、言いにくい状況ではないか。国も距離をとって活動することを進めているので、そこに関しては実施できるのではないかと感じている。</p>
<p>委員</p>	<p>座りすぎ、家でじっとしていることの弊害が、世界で注目されており、少しでも活動するほうがいいと WHO でも推奨している。(コロナ禍では) 市が活動を推奨しにくい部分もあると思うので、じっとしていることのリスクを伝えてはどうか。人間の行動としては、先ほどのナッジ理論の話で、損失バイアスといって“得をするより、損失をしないようにする”という意味が 2 倍位強いと言われており、行動を後押しする可能性がある。外で活動する時の対処方法は、スポーツ庁のホームページに掲載されているので、そういった情報も同時に発信してはどうか。また、健康格差が非常に問題になっていて、オンラインでの代替案を提案されているが、家庭に設備を持ってないところもあるため、この部分については、今後考えていく必要があると感じている。</p>
<p>委員</p>	<p>コロナの状況は、感染者が増加する傾向がみられ、昨年 10 月末の状況が参考になるかどうかかわからないが、一つの例として説明する。他市で、市民が健康測定会を実施する計画を立て、実施方法は、測定時間指定の事前予約制とし、測定の関わり方等を事前に詳細に協議した。例年、百数十人程度参加する会ではあるが、感染予防策を講じた上で、午前・午後の測定で 80 人ほどの参加者であった。参加者も「参加してよかった」との声があった。市民と市で事前の打ち合わせを含めて計画的に実施し、参加者一人ひとりも感染防止策を講じ、互いに意識をもつことは重要ではないかと感じた。行政がどうサポートするか、市民の相談を受け、市民のやる気を応援することも大事ではと感じている。</p>
<p>会長</p>	<p>新型コロナウイルス感染症については、治療や予防も分からないことが多く、試行錯誤している状況ではないかと思う。その中で(市民活動など)やらなくてはいけないことに対し、段取りをもって実施して感染者が発生しても、その人を責めることなく、次にどうするかという検討してはどうかと感じた。最後にもうひとり、ご意見がある方は挙手をお願いしたい。</p>
<p>委員</p>	<p>社協では、実際に活動している方と例年以上に打ち合わせを密にしている。「やりたいけど、どうしたらいい?何かしたいけどできない。」と多く相談に来られる。福社会長や民生委員の方など、普段の活動で集うことが難しくなっているため、古賀市内の一人暮らしの高齢者を中心に見守り活動を実施し、必要な方の 100%に見守りができている状況。一回目の緊急事態宣言が終わり、集う活動が 50%ほど復活したが、再度の緊急事態宣言により、活動が減ってきている。福社会では、感染予防策を実施し、食事も提供しないように実施していたが、中止になることが増えてきた。テレビでも外出しないようにと言われているので、外で集う活動は難しいだろう。その中でもできることをやりましょと福社会長や民生委員の方と、時に参考になる他市や他県の情報を提供しながら、提案をしているところである。市も現場で活動している地域の人と一緒にどうやって活動すればいいか検討しながら、進めてはどうか。</p>

会長	それぞれの立場から意見を頂戴でき、市の事業に生かしていただきたいと思う。みなさんのご協力に感謝申し上げます。
事務局	短時間ではありましたが、多岐にわたる議題について協議いただき、感謝したい。皆様から頂きました意見を参考に、市民の方々のやる気と活動を止めることなく、コロナ下においても健康づくりや介護予防を市民とともに推進していきたいと考えている。今後とも委員の皆様、市の事業についてのご意見を時々いただけるとありがたい。そういったご意見を元に事業展開の参考にしたい。当日配布の古賀市自殺実態プロフィールは、机の上に置いて帰っていただきたい。